

令和2年度

美馬市立岩倉中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、自ら学習計画を立て、意欲的に学習しようとする生徒の育成
- 個に応じた指導の改善とICT機器の活用等の指導の改善

学力向上検討委員会構成

- | | | | |
|---------|----------|------------------|-------------|
| 学力向上推進員 | 委員 | 校長 北原 一世 | 教頭 河野 昭一 |
| 大塚みどり | 教務 佐藤 秀樹 | 1学年主任 宇民としえ | 2学年主任 松田 賢二 |
| | | 3学年主任・研修主任 大塚みどり | |

校長

北原 一世



◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

全教職員が学力に関わる課題や情報を共有し、学校として重点的に取り組む内容を明確にする。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○真面目な学習態度で、こつこつ素直に努力し、課題にも熱心に取り組むことができる。 ●教科によって学力に二極化傾向が見られるため、基礎・基本の定着を徹底する必要がある。	・自ら進んで学習に取り組む生徒 ・学習時間を確保し、主体的に家庭学習に取り組む生徒 ・課題解決をめざし、粘り強く課題に取り組める生徒	・各教科の小テストの継続指導を行う。 ・「家庭学習の友」や「家庭学習の手引き」を使い、家庭の協力を得ながら学習ルールを明確にする。 ・朝の学習の時間を活用して、ドリル等を使用し、教科の基礎・基本の定着を図る。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題を解決するために、自分の考えをまとめたり、表現を工夫したりして取り組もうとしている。 ●考えや意見を伝えることに課題が見られるため、相手にわかりやすく伝える手段や方法を身につける必要がある。	・授業中、目的に応じ根拠や理由を明確にしなが意見の表明ができる生徒 ・相手の発言の意図を捉えながら聞いたうえで、相手の考えを受け入れ、自分の考えをもつことができる生徒	・授業中、ICT機器、ホワイトボード、ペア学習や思考ツール等を活用し、効果的に意見を交換する授業展開の工夫をする。 ・学習終了時に、自己評価表を用いたり、各学期末に学習アンケートを実施したりして、生徒個々に学習の振り返りをさせる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝の学習や家庭での自主勉強ノートには真面目な態度で主体的に取り組んでいる。 ●自分の将来を見据えた学習への取組ができていない生徒もあり、主体的な学習の定着に至っていない。	・自己実現のために、今、自分が成すべきことをしっかり考え、学ぶことの意義を見出し、実行できる生徒 ・自己の課題を見つけ、課題解決の方法を学ぶ中で、学習することの楽しさ、学ぶことの喜びを感じることでできる生徒	・「キャリア・パスポート」や「家庭学習の友」等を効果的に活用し、課題解決学習の習慣化を図る。 ・本校の学習目標である「三びきのカエル(かんガエル・まちガエル・ふりカエル)」を常に意識した授業展開を考える。			

令和2年度 学力向上ロードマップ



